

# 業務報告

## 平成 2 年度廃液処理・排水状況

平成 2 年度は、無機廃液処理装置・有機廃液処理装置とも大きな改修工事もなく、現存の設備で年々増加する廃液に対処してきた。しかしながら、両処理装置とも次第に老朽化しており、処理能力アップの方向での改修が望まれるところである。洗浄・生活排水部門の水質調査では、数年前重金属による水質異常がたびたび発生していたが、近年この異常はなくなった。しかし、BOD、COD、大腸菌群数等の生活環境項目の異常や有機ハロゲン化合物の流出といった水質異常へと様変わりしている。

### 無機廃液部門

無機廃液発生量は、3 年連続10,000 ℓ 前後で一定している。しかし、処理のバッチ数は増加を続け、昭和63年度：16バッチ、平成元年度：17バッチ、平成 2 年度：19バッチとなっている（有機洗煙水の処理を除く）。これは有機物を多く含んだ無機廃液が多く搬入されることに原因があり、1 バッチで処理できる廃液量が減少しているためである。

近年シアン廃液の貯留・搬入にあたって、シアン廃液の pH が中性もしくは弱酸性である廃液が時々見受けられます。シアン廃液は、安全性を考慮して水酸化ナトリウムなどで pH 約12で貯留していただくようお願い致します。またシアン廃液について、シアンが含まれているかどうか内容物に疑問がある場合には、簡易シアン測定装置（ポナールキット）を準備しましたので、廃液搬入時にはご利用下さい。

平成 2 年度の無機廃液の部局別発生量を表 1 及び図 1、集期別発生量を表 2、年間処理量及びスラッジ量を表 3、年度別年間無機廃液発生量の推移を図 2 に示す。

表 1 無機廃液年間発生量（平成 2 年度部局別）

（単位：ℓ）

部 局	地研	教育	理	医	医病	歯	歯病	薬	工	農	教養	資研	医短	環境	津専	合計	元年度
重金属	28	340	1495	119	0	0	0	495	2533	555	2660	52	47	370	0	8694	8933
水 銀	0	0	30	308	60	20	3	10	10	81	0	0	0	40	0	562	625
シアン	0	20	15	75	0	0	0	110	23	46	160	0	0	140	0	589	556
合 計	28	360	1540	502	60	20	3	615	2566	682	2820	52	47	550	0	9845	10114

表2 集期別無機廃液発生量

平成2年7月 (単位: ℓ)

部 局	地研	教育	理 医	医病	菌	菌病	薬	工	農	教養	資研	医短	環境	津専	合計
重金属	28	340	955	79	0	0	215	1382	300	1580	40	47	180	0	5146
水 銀	0	0	10	220	0	20	3	10	45	0	0	0	0	0	308
シアン	0	20	2	60	0	0	40	11	40	120	0	10	60	0	363
合 計	28	360	967	359	0	20	3	255	1403	385	1700	40	57	240	5817

平成2年12月 (単位: ℓ)

部 局	地研	教育	理 医	医病	菌	菌病	薬	工	農	教養	資研	環境	医短	津専	合計
重金属	0	0	540	40	0	0	280	1151	255	1080	12	0	190	0	3548
水 銀	0	0	20	88	60	0	10	0	36	0	0	0	40	0	254
シアン	0	0	13	15	0	0	70	12	6	40	0	0	80	0	236
合 計	0	0	573	143	60	0	360	1163	297	1120	12	0	310	0	4028

表3 無機廃液処理量及びスラッジ量 (平成2年度)

廃 液 種 別	処 理 期 間	処 理 量	ス ラ ッ ジ 量	含 水 率
有 機 洗 水	H 2. 8. 28 ~ 8. 31	8,000 ℓ	145.0 kg	62.5%
重 金 属	9. 3 ~ 9. 6	530	137.0	63.1
〃	9. 6 ~ 9. 11	530	115.0	66.7
〃	9. 12 ~ 9. 18	790	123.0	64.8
〃	9. 18 ~ 9. 21	790	120.0	64.4
〃	9. 25 ~ 9. 28	494	150.0	62.8
〃	9. 28 ~ 10. 3	537	189.0	66.5
〃	10. 4 ~ 10. 9	520	137.0	66.3
〃	10. 11 ~ 10. 17	476	245.0	63.9
〃	10. 18 ~ 10. 23	478	275.0	63.7
水 銀	10. 24 ~ 10. 30	541	241.0	64.5
シ ア ン	11. 5 ~ 11. 9	651	283.0	64.7
有 機 洗 水	H 3. 1. 22 ~ 2. 1	12,000	230.0	59.5
重 金 属	2. 12 ~ 2. 15	497	135.5	64.6
〃	2. 18 ~ 2. 21	500	161.0	65.8
〃	2. 25 ~ 2. 28	480	142.5	63.5
〃	3. 1 ~ 3. 6	540	107.0	65.6
〃	3. 7 ~ 3. 12	540	101.5	63.2
〃	3. 12 ~ 3. 15	451	151.5	69.1
〃	3. 18 ~ 3. 22	540	295.0	64.4
シ ア ン	3. 25 ~ 3. 29	476	224.0	66.0
合 計	計	10,361 ℓ	3,708 kg	—

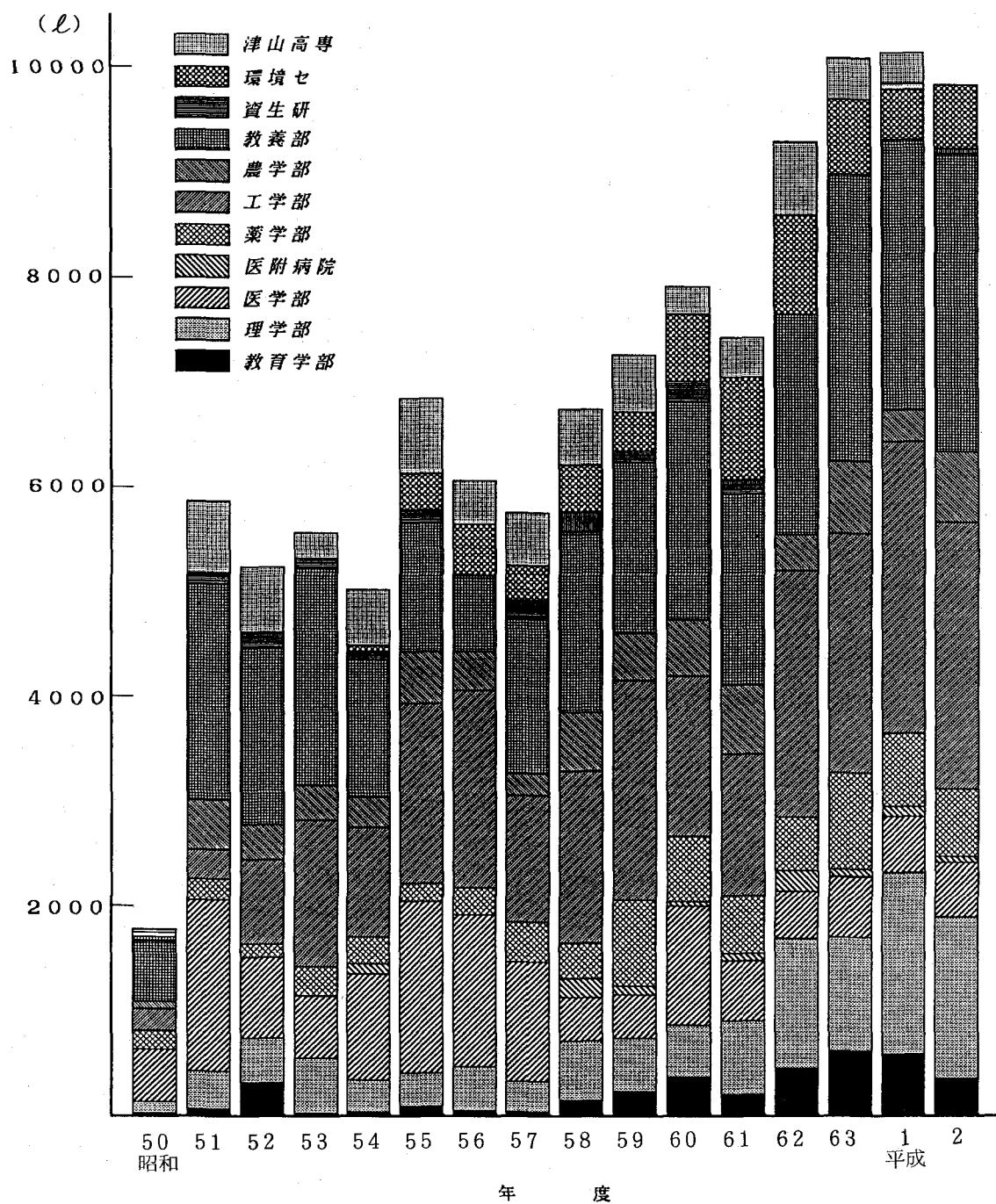


図2 年度別年間無機廃液発生量の推移

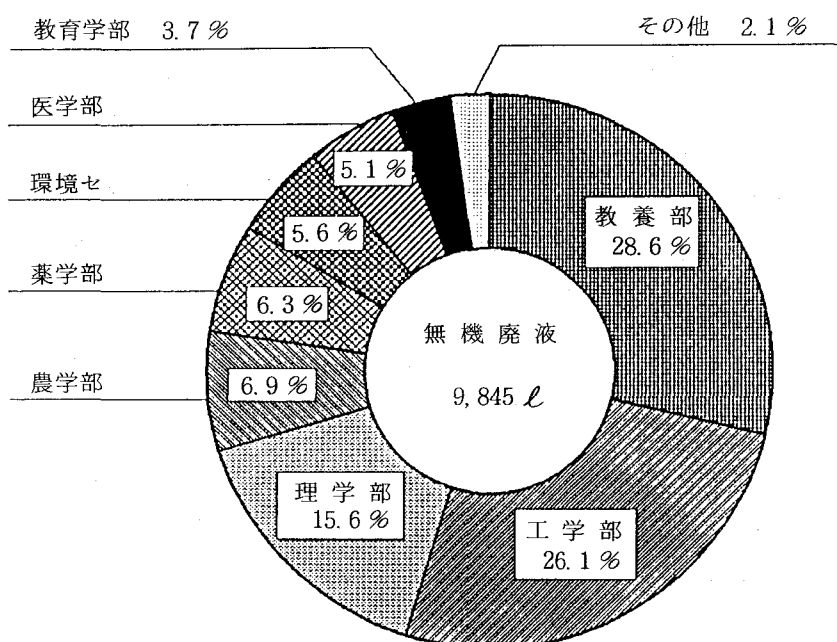


図1 無機廃液年間発生量（平成2年度部局別）

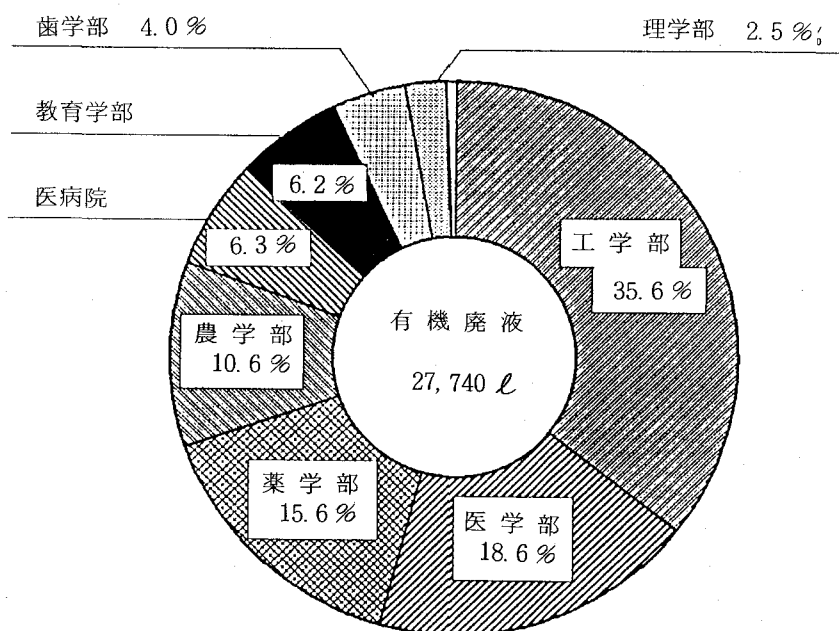


図3 有機廃液年間処理量（平成2年度部局別）

## 有機廃液部門

有機廃液の年間処理量は、可燃処理・難燃処理とも引続き増加している。年間に処理できる量には限界があり、全て処理できない可能性がでてきました。現在有機廃液の貯留量を年2回調査して、処理をできる限り行ってきましたが、本年度より有機廃液の貯留量調査の後、処理は部局別の順番制とし、処理できなかった廃液は次回の処理に回すこととなりました。各研究室ならびに技術指導員の方々にはご迷惑をおかけするかもしれませんが、有機廃液の処理量が限界にあることにご理解をいただき、ご協力をお願い致します。また、処理をスムーズに行うために、可能な限り処理予定日の前日に廃液調整を行うなど、他の多くの方々が廃液処理できるよう処理効率アップにご協力をお願い致します。

平成2年度の有機廃液の部局別処理量を表4及び図3、処理期別処理量を表5、年度別有機廃液処理量の推移を図4に示す。

表4 有機廃液年間処理量（平成2年度部局別）

（単位：ℓ）

部 局	地研	教育	理	医	医病	菌	菌病	薬	工	農	教養	資研	医短	環境	津専	合計	元年度
可燃性	0	1710	680	870	80	180	0	3020	7950	1980	0	0	30	70	0	16570	14250
難燃性	0	0	0	4610	1660	940	0	1310	1930	970	0	0	60	0	0	11170	5840
合 計	0	1710	680	5480	1740	1120	0	4330	9880	2950	0	0	90	70	0	27740	20090

表5 処理期別有機廃液処理量

平成2年4～7月 （単位：ℓ）

部 局	地研	教育	理	医	医病	菌	菌病	薬	工	農	教養	資研	医短	環境	津専	合計
可燃性	0	720	280	560	80	120	0	1400	5220	1640	0	0	30	70	0	10120
難燃性	0	0	0	3080	780	590	0	200	1550	970	0	0	60	0	0	7230
合 計	0	720	280	3640	860	710	0	1600	6770	2610	0	0	90	70	0	17350

平成2年10月～3年1月 （単位：ℓ）

部 局	地研	教育	理	医	医病	菌	菌病	薬	工	農	教養	資研	医短	環境	津専	合計
可燃性	0	990	400	310	0	60	0	1620	2730	340	0	0	0	0	0	6450
難燃性	0	0	0	1530	880	350	0	1110	380	0	0	0	0	0	0	3940
合 計	0	990	400	1840	880	410	0	2730	3110	340	0	0	0	0	0	10390

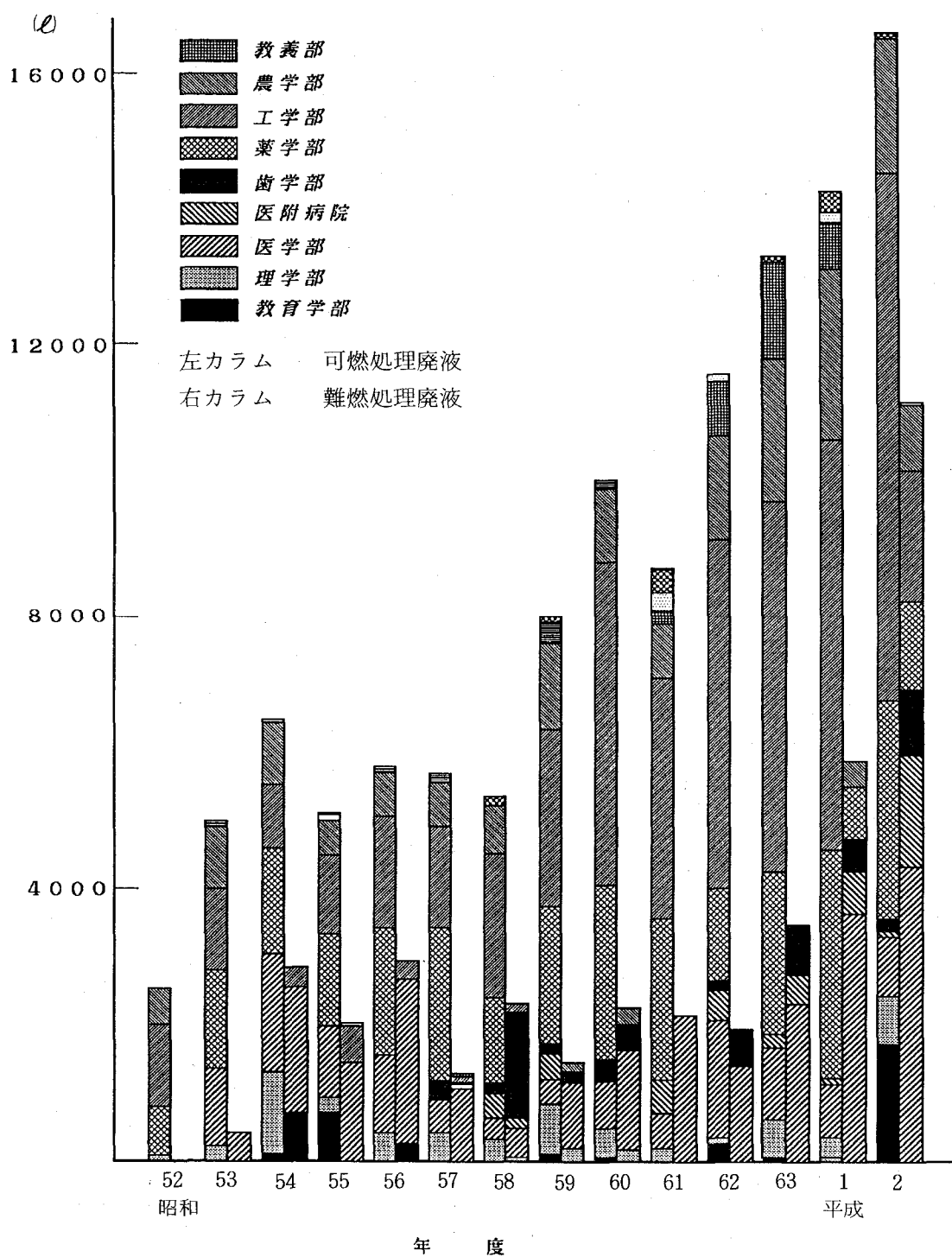


図4 年度別有機廃液処理量の推移

## 洗浄・生活排水部門

### 1. 最終放流水の分析結果

平成2年度の津島地区各団地の最終放流水水質測定結果(毎月の定期分析日14時の値)を表7に示す。ここでは最終放流水での大腸菌群数の異常が目立つ。特に平成2年8月は西団地で12000個/cm<sup>3</sup>と許容限度を大幅に超えた。追跡調査等の結果、合併処理水は塩素消毒を行っているため検出されず、特定の部局の実験洗浄排水で多く検出された。大腸菌等の細菌類は、有機物が多い桝内、ポンプ槽内では繁殖しやすい。これらの大腸菌群はどのような素性のものかはわからないが、感染症の病原となる可能性もあるため、実験室での大腸菌の取扱には十分に注意するよう心がけ、特にそれを扱った廃液、容器類は十分に滅菌する等の適切な処置をして頂きたい。

BODは上乘せ基準を超えたことが数回ある。CODの値は東団地、北団地、西団地の順に高い値を示す傾向にあり、ここでは異常値はないが自動測定装置で振り切れが時々発生した。

### 2. 水質調査状況

当センターでは、このような状況に対処するため、毎月の定期分析時には、10時、14時、16時に各団地の最終放流水および各部局の実験洗浄排水を採取し、全水銀、鉛等の重金属の他に大腸菌群数およびBOD、CODの調査を行っている。さらに平成元年10月から有害物質として規制が施行されたトリクロロエチレンおよびテトラクロロエチレンの分析に伴い、トリハロメタン類、四塩化炭素等が排出されていることを確認したため、平成2年度から有機ハロゲン化合物の分析も同時に行っている。その結果、重金属の異常はなかったが、BOD、CODが基準を大幅に超えたり、かなり高い濃度のクロロホルムおよび四塩化炭素が特定の部局および最終放流水で検出されたことがあった。

### 3. pH異常発生件数

各部局の実験洗浄排水 pH 異常発生件数を年度別および平成2年度の発生件数を図5および表8に示す。pH異常の発生回数は平成元年度に前年度よりも増加したが、近年減少の傾向にある。pH異常時にはその問題以外に有害物質を含有している確率が高いので注意を要する。

### 4. 汚濁負荷量・総排水量

各団地およびその他の放流口でのCOD値と排水量の測定値から津島地区全体の汚濁負荷量および総排水量を集計したものを図6に示す。数回汚濁負荷量および総排水量が大きい値を示しているのは、大雨によって多量の雨水が配管へ混入し、排水量が増えたことによるものである。その各団地の最終放流水のCOD測定(1日24回×3箇所)で発生するCOD測定廃液の

搬入・処理状況を表9に示す。

## 5. 共同業務

毎年8月に施設部の協力を得て実施している部局と環境管理センターとの水質管理に係わる共同業務は平成2年度で6回目になる。配管経路の点検結果等の内容は、細かに記録して部局へ送り、異常箇所に対しては、その処置状況および抜本的な対策方法等について報告して頂くようになっている。実験洗浄排水経路での汚泥等の堆積量は全体的に年々減少しているが、特定の桝で有機性汚泥の堆積が多い。またポンプのトラブルの原因となりやすい実験に使うチップ、遠沈管、キャップ等の異物が混入している桝が目立ち、中間ポンプ槽および最終放流ポンプ槽にまで達して困る。

最後に実験洗浄排水は、未処理で公共用水路に放流されること等の環境管理システムを今一度よく把握して頂き、廃液、排水の取扱には十分注意して頂きたい。

## 写真廃液

写真廃液は8月に集液し、12月に現像液、平成3年7月に定着液を委託処理した。写真廃液の発生量は近年落ち着いている。平成2年度の各部局受け入れ量を表6に示す。

表6 平成2年度写真廃液受入結果

(単位：ℓ)

部局	教育	理	医	歯	薬	工	農	教養	資研	地研	保管	図館	合計
現像液	287.5	272.0	0	0	282.0	511.5	185.0	39.0	18.0	0	0	0	1595.0
定着液	97.0	158.0	0	0	113.5	198.5	149.0	19.0	14.0	0	0	0	749.0
合計	384.5	430.0	0	0	395.5	710.0	334.0	58.0	32.0	0	0	0	2344.0



表7 平成2年度 最終放流水水質分析結果

測定項目 (単位) 年月日および団地名		生 活 環 境									
		pH	BOD mg/ℓ	COD mg/ℓ	浮遊 物質 mg/ℓ	ヘキサン 抽出物質 mg/ℓ	フェノ ール類 mg/ℓ	銅 mg/ℓ	亜鉛 mg/ℓ	溶 性 鉄 mg/ℓ	溶 性 マンガン mg/ℓ
平成2年 4月 19日	北団地	7.5	34	16	8	1.1	0.01	<0.01	0.12	0.22	0.07
	東団地	7.7	4.0	8.3	5	<0.5	<0.01	<0.01	0.02	0.04	0.04
	西団地	7.5	18	9.3	6	<0.5	0.01	<0.01	0.08	0.16	0.16
5月 24日	北団地	7.3	8.9	7.4	2	<0.5	<0.01	<0.01	0.05	0.11	0.03
	東団地	7.4	0.8	5.6	2	<0.5	<0.01	<0.01	0.03	0.04	0.04
	西団地	7.2	18	13	4	<0.5	<0.01	<0.01	0.06	0.14	0.01
6月 21日	北団地	7.4	20	9.0	4	<0.5	0.01	<0.01	0.05	0.27	0.05
	東団地	7.4	2.9	5.9	2	<0.5	<0.01	<0.01	0.04	0.02	0.03
	西団地	7.4	34	16	3	<0.5	<0.01	<0.01	0.06	0.11	0.01
7月 5日	北団地	7.8	6.6	6.7	7	<0.5	<0.01	<0.01	0.05	0.08	0.02
	東団地	7.6	1.0	5.6	2	<0.5	<0.01	<0.01	0.03	0.02	0.03
	西団地	7.4	30	18	13	<0.5	<0.01	<0.01	0.08	0.08	0.01
8月 2日	北団地	7.2	15	12	4	<0.5	<0.01	0.01	0.52	0.09	0.05
	東団地	7.0	0.7	6.3	2	<0.5	0.01	0.02	0.21	0.01	0.05
	西団地	7.4	9.0	16	5	<0.5	<0.01	0.01	0.11	0.11	<0.01
9月 13日	北団地	7.1	3.0	7.2	7	<0.5	<0.01	0.01	0.14	0.34	0.23
	東団地	6.6	0.5	7.1	9	<0.5	<0.01	<0.01	0.39	0.03	0.25
	西団地	7.2	6.1	6.2	3	<0.5	0.01	<0.01	0.07	0.13	<0.01
10月 18日	北団地	7.2	5.2	7.0	4	<0.5	<0.01	<0.01	0.09	0.08	0.01
	東団地	7.3	0.8	6.4	2	<0.5	<0.01	<0.01	0.04	0.02	0.02
	西団地	7.2	14	12	3	<0.5	<0.01	<0.01	0.07	0.12	0.01
11月 15日	北団地	7.2	21	10	6	<0.5	0.06	0.01	0.06	0.13	0.01
	東団地	7.1	0.7	4.8	2	<0.5	<0.01	0.01	0.21	0.03	0.04
	西団地	7.2	26	15	3	<0.5	0.01	0.01	0.06	0.12	<0.01
12月 6日	北団地	7.5	7.8	8.8	4	6.1	0.02	<0.01	0.06	0.08	0.01
	東団地	7.0	0.5	6.1	2	<0.5	<0.01	<0.01	0.12	0.03	0.11
	西団地	7.2	3.6	10	5	<0.5	<0.01	<0.01	0.05	0.04	0.01
平成3年 1月 17日	北団地	7.0	15	7.9	4	0.5	<0.01	<0.01	0.09	0.09	<.001
	東団地	7.2	3.6	10	5	<0.5	<0.01	<0.01	0.05	0.04	0.05
	西団地	7.4	19	16	2	<0.5	<0.01	<0.01	0.08	0.16	<0.01
2月 14日	北団地	7.1	20	7.1	3	<0.5	<0.01	0.01	0.07	0.10	0.02
	東団地	7.1	1.4	6.8	3	<0.5	<0.01	<0.01	0.04	0.03	0.04
	西団地	7.2	22	13	8	<0.5	<0.01	<0.01	0.06	0.10	<0.01
3月 7日	北団地	7.1	8.5	6.6	2	<0.5	<0.01	<0.01	0.08	0.11	0.04
	東団地	6.6	1.0	7.0	4	<0.5	<0.01	<0.01	0.12	0.04	0.18
	西団地	7.2	13	13	11	<0.5	<0.01	<0.01	0.08	0.13	<0.01
排水基準		5.8	160	200	200	鉍物油 5	5	3	5	10	10
上乗せ基準		~8.6	日間平均(120)	(150)	(150)	動植物油30	—	—	—	—	—

項 目					有 害 物 質							
全クロム mg/ℓ	フッ素 mg/ℓ	大腸菌 群数 個/cm <sup>2</sup>	全窒素 mg/ℓ	全りん mg/ℓ	カドミウム 及びその化合物 mg/ℓ	シアン 化合物 mg/ℓ	鉛 mg/ℓ	六価クロム 化合物 mg/ℓ	ひ素及び その化合物 mg/ℓ	全水銀 mg/ℓ	トリクロロ エチレン mg/ℓ	テトラクロロ エチレン mg/ℓ
<0.03	<0.1	0	22	1.9	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	30	2.2	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	12	2.2	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	14	1.1	<0.001	<0.1	0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	25	2.8	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	9.0	1.6	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	12	1.2	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	2	17	2.9	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	2	10	2.1	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	11	0.71	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	16	1.8	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	6600	8.9	0.99	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	330	13	1.5	<0.001	<0.1	0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	20	3.7	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	12000	15	3.2	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	17	1.4	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	23	3.4	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	6.8	1.5	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	330	13	1.5	<0.001	<0.1	0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	11	1.0	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	17	1.9	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	14	8.2	0.68	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	20	2.4	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	20	5.5	0.92	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	0.1	0	21	1.4	<0.001	<0.1	0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	22	3.1	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
0.05	<0.1	0	17	1.9	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	7.6	0.64	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	70	3.4	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	17	1.3	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	3.1	0.36	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	20	3.4	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	85	1.1	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	0.1	0	9.0	0.99	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	0.1	0	29	2.7	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
<0.03	<0.1	0	14	1.9	<0.001	<0.1	<0.02	<0.04	<0.005	<0.0005	<0.002	<0.0005
2	15	日間平均 3000	120 (60)	16 (8)	0.1	1	1	0.5	0.5	0.005	0.3	0.1
—	—	—	—	(5)	—	—	—	—	—	—	—	—

表 8 平成 2 年度 実験洗浄排水 pH 異常発生件数

採水場所	種別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
教育学部 検水槽	酸性	2	2	2	3	1	0	1	2	1	4	2	0	20
	アルカリ性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
理学部 検水槽	酸性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	アルカリ性	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
薬学部 検水槽	酸性	3	1	3	0	2	2	0	0	1	0	0	1	13
	アルカリ性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工学部 検水槽	酸性	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
	アルカリ性	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
農学部 検水槽	酸性	0	1	0	1	0	0	1	0	1	3	0	2	9
	アルカリ性	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	4
教養部 検水槽	酸性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	アルカリ性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		7	5	5	5	4	4	2	4	3	8	3	4	54

水素イオン濃度 (pH) 許容限度：5.8以上8.6以下  
(海域以外の公共用水域に排出させるもの)

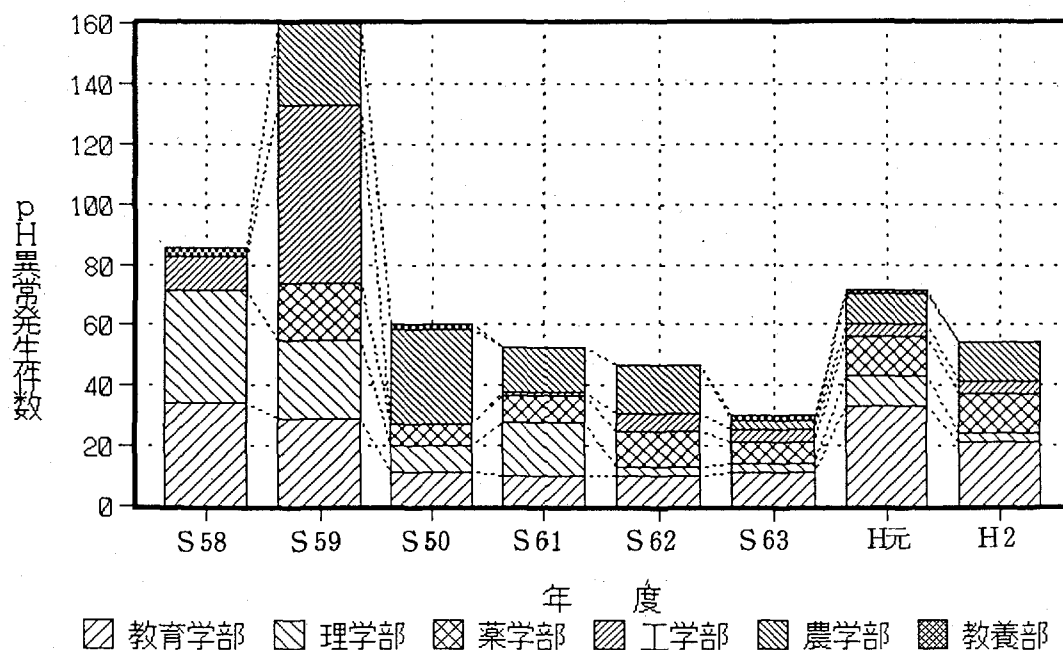


図5 年度別部局 pH 槽における pH 異常発生件数

表9 平成2年度 COD測定廃液の搬入・処理状況

(単位: ℓ)

搬入年月日	搬入量					備考
	北団地	東団地	西団地	計	貯留量	
					3650	前年度繰越量
H2. 4. 13	400	300	400	1100	4750	
5. 10	370	360	410	1140	2290	処理量3600
6. 11	520	480	500	1500	290	処理量3500
7. 9	350	340	380	1070	1360	
7. 31	340	310	350	1000	2360	
8. 28	360	340	360	1060	3420	
9. 27	410	380	420	1210	4630	
10. 24	400	380	420	1200	230	処理量5600
11. 27	450	370	480	1300	1530	
12. 20	410	300	410	1120	2650	
H3. 1. 16	430	350	420	1200	3850	
2. 12	420	380	420	1220	5070	
3. 11 3. 28	580	540	610	1730	0	処理量6800
合 計	5440	4830	5580	15850	—	
処理量合計						19500*

\* 前年度繰越量 3650ℓを含む

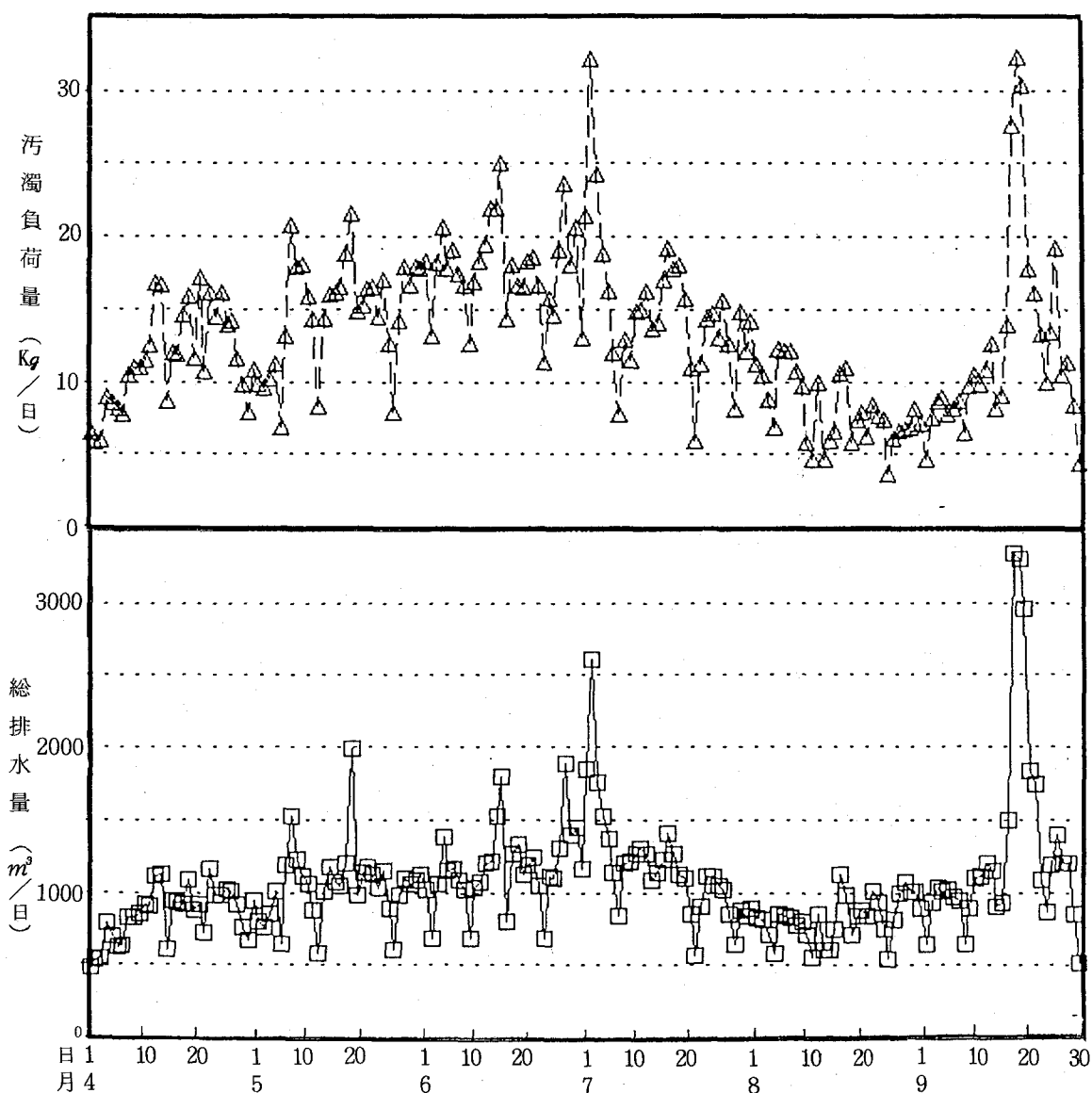


図6—1 平成2年度(前期)汚濁負荷量・総排水量測定結果

